

第1回ウィズあかし運営委員会 実施報告

日 時：令和2年9月25日（金）18：00～20：30

場 所：ウィズあかし8階 学習室802

参加者：運営委員 12 名 明石コミュニティ創造協会スタッフ 6 名

1. あいさつ（事務局）

委員就任のお礼。

2. ウィズあかし運営委員会について（事務局）

事務局よりウィズあかし運営委員会の趣旨について説明。

任期2年。基本的に年2～3回開催の予定。

3. 自己紹介

各委員より日頃の活動の紹介や運営委員会に応募した理由や期待する内容について話された。

自己紹介のキーワード

- ・フリースペースがあって本当によかった
- ・知り合いから「こんな講座ないの？」って言われます
- ・明石は横に長い
- ・時間によって顔が違う施設っていいな
- ・市民活動 × 地縁活動
- ・自治会長などだけでなく個人の活動が広がっている
- ・つくった施設をどう使うか？どんな体験ができるか？
- ・ウィズあかしで人がよくなるとまちがよくなる？
- ・学ぶ機会、人と会う機会があると人は変わる

4. ウィズあかしのこれまでにについて

事務局よりウィズあかしのこれまでの歩みや第1期運営委員会での意見について概略を説明。

5. 意見交換「これからのウィズあかしに期待すること」

（委員）

ウィズあかしでの講演機会を増やしてほしい。受講生からは、ウィズあかしのイベント

でなければ参加しにくいと言われる。

(事務局)

みんなの講座はまだデビューしていない人が対象で、マンパワーも限られていることから、回数に限界があるのが実情。講師デビューの問い合わせが増えているが、どこまで主催で行うべきかが課題。フリースペースを活用して、もっと気軽にチャレンジする機会を作っていきたい。

(委員)

川西女性起業塾を開催したところ、ウーマンクリエイトという個人事業主のネットワークを作り、自分達でワーキングスペースを作ったり、講座を実施するようになった。

(委員)

ウィズあかしと一緒にイベントをするのではなく、横のつながりでコラボできればよいのでは。ウィズあかしには、面白いと思ったら動ける環境やつながりができる雰囲気づくりを行ってほしい。

(委員)

運営委員会としては、もっと一般利用者の視点で議論した方がよいのでは。利用者の満足度アンケートによると、センターの利用者は明石東部に偏っている。ミニウィズあかしを市内各所に作れないか。西部では市民活動やボランティアが育っていない。コミセンは夜閉まっており、気軽に集える場がない。

(事務局)

第1期の運営委員会に参加していただいた中川先生のご指摘にもあったように、エリアの問題だけでなく、時間や余裕がない人等、これまで利用していただけていない層への機会の提供に力を入れる必要があると考えている。

(委員)

ウィズあかしに来たら、その日ごとに何か面白いことがある場所になればよいのでは。

(委員)

市立図書館とウィズあかしでは、本の返却方法が別々になっているため、どこでも本を返却できるようにできないか。

(委員)

コミセンの図書館が活用されていないため、読書会の開催を検討している。

(委員)

私は「ゆるさ」と「出会い」と「学び」で人は変われるというポリシーを持って活動している。高価なサービスを利用できない人にも機会を提供したい。テーマや時間帯を変えることで、ターゲットを変えられるのではないか。

(委員)

子育て支援課の出前講座でコミセンで講座をやってみると、一気に横のつながりが広がった。ウィズあかしでもコミセンや地域につなぐような紹介ができないか。講師カタログ

グに載らないような小さな活動を紹介してほしい。

(委員)

コロナ以前はイベントで大人数を集めたいと思っていたが、5～10人の顔の見える範囲で後々にもつながる方がよいと感じるようになった。小規模の活動がたくさんできればよいのでは。人を育ててそこに定着させないといけない。小・中学校区にコーディネーターが必要。

(委員)

1人で活動するのは難しいため、一緒に活動できる人が必要。ボランティアを集める工夫が必要。

(事務局)

ウィズあかしの団体登録制度は2人から可能にし、ハードルを低くしている。

(委員)

魚住から明石に来るのは遠い。子どもだけで来るには遠く、親の送迎が大変なのは。

(事務局)

第2期の運営委員は魚住在住の方が多い。第1期に提示されたHUB機能や本日意見のあった環境や雰囲気づくりが大切である。ウィズあかしの外にどうつなげていくか、「コーディネート力」の必要性を再認識した。本日はそれぞれの想いを知る機会とさせていただき、第2回で議論を深めていただきたい。

(委員)

本日は、施設の評価軸が数字だけなのかということを考えさせられた。皆の頑張り度や「エンパワメント指数」が作れないか。

(委員)

各委員の意見を興味深く聞かせていただいた。本日の議論で感じたことは、以下の通り。

①コンテンツとしての運営委員会

- ・運営委員会自体がいいコンテンツ。共有ができ、高度なエンパワメントの場になっている。「ウィズミーツ」から「兵庫ミーツ」「ワールドミーツ」へ市外の同じような施設と連携してはどうか。

②施設の評価軸の見直し

- ・施設の評価軸が稼働率で表されてしまうことが残念。利用者数や満足度だけでなく、それ以外の表現方法はないか。例えば、ここからの波及効果、学んだことをどう活かしたか等。
- ・リピーターを増やすことが目的かどうかについて再考が必要。来た回数ではなく、エンパワメントした人が地域に出て活躍することを評価すべきでは。

③エンパワメントの先は

- ・エンパワメントはもう十分できているのではないか、今以上に頑張らないといけないのかどうか。過度に盛り上がったまちは盛り下がってしまう。今のままよい状態が続く方が大事である。ブレーキをかけることも必要ではないか。

- ・出口（どこにどう恩返しするのか）を考えるべきではないか。ウィズあかしは市民が小コミや中コミに出て悩んだ時に帰ってこられるプラットフォームの役割を果たせばよいのでは。

(事務局)

第2期の運営委員は立候補して就任していただいた方ばかりで、これからの議論が面白くなりそうな予感がしています。第2回以降、引き続き議論を深めていきたいと思えます。また日程を調整して連絡させていただきます。

本日の議論を通じてコーディネート力の必要性を再認識しました。ありがとうございました。

以上